



アートにQ!

キンビでは、2月3日からはじまる「FANTASY 花田和治の色と形」展の準備が進んでいます。すでに花田和治さん(1946年生/札幌市在住)の作品が収蔵庫に届いているそうです。ちょっとおじゃましてみましょう。

Q こんにちは。これが花田和治さんの絵ですね。たくさんありますね。今回は、何点、出品されるのですか?

A 53点です。その大部分が札幌市西区にある花田さんのアトリエから、お借りしてきました。1970年代半ばの初期作品から、新作までをご紹介しますよ。



《アース》1994年 ※表紙作品



《月夜》1982-83年

Q これは、今回の展覧会ポスターになった作品ですよね。きれいな色だなあ。

A 抽象絵画のようですが、作品名が《月夜》と聞くと、イメージがわいてくるでしょう。

Q この黄色の丸が、お月さまですね。実際の風景がヒントになっているんですね。



《手稲山》1988年

A これは《手稲山》という作品。花田さんの家の前からみると、こんなふう
に手稲山が見えるそうです。

Q そういわれると、山の風景に見えてきました。

A 花田さんは、自然からインスピレーションを得て、それをシンプルな形
と色に置き換えているんですよ。

《空と斧》1977年

Q シャープで緊張感があって、現代アートって感じがしますね。

A 花田さんが、1977年に発表した《空と斧》です。世界的動向の最前線に
直接つながる表現でしたから、斬新な作品として注目を集めました。幾
何学的な色面構成ではありますが、黒い斧が描かれていますよ。

Q ホントだ、親しみがわ
きますね。制作年の
1977年は、道立近代
美術館が開館した年
ですよ。

A よく知ってますね。
この年、花田さんは
仲間たちと「北海道
現代作家展」を立ち
上げて北海道の現
代アートをリードしま
した。「北海道現代作
家展」は、3回展から、
キンビが会場だった
んですよ。



《映美のFANTASY》2005年

Q 花田さんは、ずっと抽象的な絵を描いているんですか?

A 実は、東京芸術大学で、小磯良平に油彩画を習っていました。

Q 意外! 写実的な人物像を得意とした昭和の画家ですよ。

A けれども、小磯良平のような具象画には進まず、大学院の頃から抽象画
を発表しています。ただし明快な色と簡素な形のなかに、いろいろなイ
メージを込めています。近作の1点《映美のFANTASY》は、窓の外に
広がる夜空を描いたと聞きました。「映美」とは当時4歳だったお孫さん
の名前だそうです。

Q 色と形が生み出すファンタジーの世界ですね。花田先生にお会いした
くなりました。

A アーティスト・トークがありますから、是非いらしてください!

🗨️ アーティスト・トーク

制作の背景やエピソードなど、
ご自身の作品についてお話しし
たいと思います。

- 日時: 2012年2月4日(土)
午後2時~午後3時
- 講師: 花田和治氏
(聞き手: 当館学芸員)
- 会場: 「花田和治の色と形」展
会場内(これくしょん・ぎやらりい2階)
※要観覧料 撮影: 佐藤雅英

